

第8回いしかわの森づくり検討委員会 議事要旨

平成18年9月8日(金)

<森づくりへの理解と参加を促す取組について>

(中島委員)

財源検討部会の総括として、森づくりの税制を施行している県と比べて、本県での現状の取組は、単発的である。今後は、森づくりに関する情報発信、県民参加による森づくりの推進、森林ボランティア活動の支援、森林環境教育による人材の育成、山から海までの総合的な環境保全の推進をポイントに事業の充実を検討していかなければいけない。

<いしかわの森づくり税(仮称)案の概要について>

(角委員)

事業規模等から、概ね賛成である。県民に負担をかけることから、その用途について県民の理解がいただけるものでなければならぬし、また、常に県民に知らせることが重要である。

(米谷委員)

税制度の導入にあたり、広く県民の理解が必要であり広報を積極的に行い、その取組を通じて、ふるさとの森は自分たちで守るという意識付けを行ってほしい。

(東方農林水産部長)

森づくりへの理解と参加を促す取組については、足りない部分を充実するように検討していきたい。また、新たな基金という形で税収の使い道を明らかにし、その内容もお知らせしていきたい。

(有川委員)

この制度が実施されることになれば、山に携わる者として、手入れの行き届かない森林を1日でも早く、健全な森林にしていきたいと思っている。

(中島委員)

財源検討部会でかなり回数を重ねて検討してきた。税制度を導入する以上、その用途と使った後の報告をきちっと行い、5年で内容の見直しを行い、石川らしい森づくりを進めていただきたい。

(石倉委員)

県民一人あたり500円という優しい金額で、山が良くなるのであれば、私達は協力していくべきだと感じている。

(木場委員)

能登地方では、林業・木材産業が基幹産業であったが、木材価格の低下等によって、森林の荒廃が進んでいることから、新たな制度で林業に活力を与えることに、役立てていきたい。

(大西委員)

このような形でまとめ、良かったと思っている。今後は、メディアを利用して、どんどん広報していただきたい。

(鶴山委員)

税率や事業規模など、内容的にうまくまとめたのではないかという気がする。

(南委員)

提案された税額などは、妥当な内容でないかと思う。今後は、各種団体を通じて、その内容を説明していくことが良いのではないかと思う。

(丸山委員長)

委員全員にご発言いただき、全員妥当であるとのことであった。また、用途や管理等について、いろいろ注意をいただいた。「いしかわの森づくり税(案)の概要について」は、概ね妥当なものとするこゝとしたいと思う。

ただし、これまでの委員会で県民の理解を得ることが重要との発言が多かったので、今後は、県の方で十分説明いただき、その結果を踏まえて、委員会としての最終結論をとりまとめたいと思う。

(東方農林水産部長)

ただ今、ご提案をいただきました今後の進め方ですが、「森づくりの重要性」、「具体的な整備手法や財源規模」、「そのための税制度」について、県民説明会や県民からの意見聴取を幅広い形で実施していきたいと考えている。

(畑森林管理課担当課長)

県民説明会は、10月中に県内3カ所程度で開催するとともに、県民から広く意見を求めるため、1ヵ月程度かけてパブリックコメントを求めていきたいと考えている。